

「奥多摩自然観察会 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

はじめて水彩でスケッチをする人、長期間絵筆をとっていない人にとっては、いきなり屋外で描くことは、敷居が高い。自然の風景は奥行きがある三次元の構造である。それを二次元である画用紙に「投影」するのが風景画の基本だ。まずは、適当なお手本(印刷物)をもとにして、机上で描く練習をしながら、屋外で描く場面をイメージトレーニングしておくのが良い。



今回のシニア組の中には、ドイツ人の大学教授もいらした。日本語も堪能で、絵に対しても実に意欲的で、すばらしい色彩の絵を短時間で描いていた。下がドイツの方の作品。滲みを生かした、情景的な作品である。祖国の風景のようだ。



学生さんもがんばっていた。たちまちたくさんの作品が集まってきた。作品は私が見たあと、その場で返却したい。しかし、活動の記録として是非画像も残しておきたいものである。こういう場合に便利なのが、「携帯用スキャナー」である。



これが、私が愛用している「携帯用スキャナー」である。充電式でどこにでも持ち歩けるので、常に私の鞆に入っている。名刺サイズからA4サイズまで、カラーで最高1200dpiの高解像度で画像を取り込める。取り込んだ画像は、スキャナーに挿しこんだSDカードにJPEGまたはPDFで直接保存できる。コンピュータがなくても画像を保存できるところがスグレモノである。会議資料などもPDFとして保存できるので、紙媒体の資料が増えなくて非常に助かっている。今回もこれを持参して、参加者の作品を全部画像として保存させてもらった。下はその作品例だ。



一通りレクチャーが終わった頃、ちょうどお昼になったので、多摩川の河原にお弁当を楽しみにいった。紅葉が美しく、すばらしいランチタイムだった。

